

コンサルティの感想 (学び)	受け持ち患者に対してPNSの思いを伝えてしまっていた(これ以上食べなかったら骨折したり生命の危機に陥ってしまうなど)。患者さんの目標(食事は5割食べる)も、1日だけで評価し、実行できていないことを指摘したりしていた。もう少し、間をおいて評価していきます。食事の話ばかりでなく、たまには引いて話を聞こうと思った。
関係継続の有無	コンサルティの意思により、継続。
全体の印象と、今後のフォローアップ	依頼内容では患者中心のコンサルテーションと思っていたが、コンサルティに思いを述べてもらいアセスメントしながら聞くと、コンサルティ中心のコンサルテーションが必要であることがわかったため、途中からコンサルティの振り返りを中心に実施した。コンサルティは言葉をうまく伝えることが苦手で誤解を受けやすいので、対象によって伝え方を考慮しなければならないことなども、今後伝えていく。1年前に比べると、よく成長できているため、よいところは評価していき伸ばしていきたいと思う。

ティに好きな香りを選んでもらう。当日、コンサルテーション中にアロマデューフューザーを用い実施するがコンサルティからは「香りがある方が心地よい」「話すとき、少し落ち着く感じがする」という感想が聞かれている。

精神科認定看護師がコンサルテーションで発揮できる強み

コンサルテーションでは、まず初めにコンサルティに依頼した経緯や胸のうちを述べてもらうのだが、話が前後したり、まとまっていないことが多く、聞いているうちにコンサルティ自身も何をどこまで整理したらいいのかわからなくなる場合がある。またコンサルティの多くは患者の問題改善をあげ、ケースによっては「問題が多すぎて、どこから手をつけていいのかわからない」と話すことがある。

しかし実際にはコンサルティ自身の患者理解不足や経験不足が前提にあるため、問題自体が整理できていないことが多いのだが、この場合にはステークホルダーや5W 1H 2Pや認知モデルといった一般的なフレームワークを使って現状を整理することになっている。このようなフレームワークを理解しておくと話聞きながら問題の整理ができ、早期に問題となっていることの仮説を描いたり、不測の事態に陥った場合でも振り返りや分析ができるからである。

もう1つは、コンサルテーションの事前にコンサルティのプロファイリングを行うことである。まずはコンサルティの背景として大きく、大学または専門学校卒業後すぐに精神科に配属になったコンサルティ(以下、新卒者とする)か、あるいは他科を経験後に精神科に配属になったコンサルティ(以下、看護経験者)か、にわけるとする。さらにコンサルティの性格、特性、行動パターン、経験年数なども考慮する。これらの情報を収集しておくことで、コンサルティの個性に合わせたコンサルテーションを展開することができる。